

岩手県指導林家等研修会の開催について（その1）

1 はじめに

普及班では、令和6年11月21日から2日間、地域林業のリーダー的役割を担う指導林家、青年林業士、林業普及指導協力員及び林研グループ（以下「指導林家等」という）を対象として、資質向上を目的とした研修会を開催したので、その内容を紹介します。

2 研修会の内容

今回の研修会は、地域の森林経営管理を担う林業経営体の育成、及び新規就業者等の多様な担い手の確保・育成をテーマとして、指導林家等から8名が参加しました。

初日は、秋田県横手市で、林業従事者の確保と定着のため、全ての人が働きやすい職場環境の実現を目指し、働き方の提案等の活動を行っている秋田県林業女性会議を訪問し、活動内容等について学ぶとともに、担い手の確保や育成について意見交換しました。

2日目は、秋田市内で県産材を活用した合板を生産する秋田プライウッド株式会社と、同社の育苗・造林・素材生産部門として新たに設立したエーピーフォーレ株式会社を訪問し、従業員の確保や定着について聞き取りするとともに、工場や苗畑を見学しました。



岩手県指導林家等と秋田県林業女性会議
(前段中央左側2名が同女性会議委員)

3 秋田県林業女性会議との意見交換

(1) 秋田県林業女性会議からの発信

- ・ 経営者が「今のままで別に問題ない」と考えていては、何も変わらない。
- ・ 女性は出産等により一時仕事を離れることもあるが、「林業が好きだから戻りたい」という意識が持てるような職場環境の整備が重要。
- ・ 男性も子供のために休みを取らなければいけないという考え方が大事。
- ・ 最近の若者は給与よりも福利厚生、特に土曜日定休の有無を重視。
- ・ 週休2日制の導入により、当初は労働生産性の低下を不安視したが、実際は社員の労働意欲が向上し、労働生産性も増加。
- ・ 1社だけでなく、一人親方を含め、業界全体での職場環境改善の取組が必要。
- ・ 将来の仕事を意識する中学生の時期に、職場体験等を通じ、職業としての林業を普及することが、担い手確保につながる。
- ・ 令和5年に職場環境改善への取り組みや林業の魅力発信の活発化等を盛り込んだ提案書[※]を作成し、現在は普及活動を実施。

その2に続きます。



担い手の確保や育成について意見交換

※「職場環境改善への取り組みや林業の魅力発信の活発化等を盛り込んだ提案書」<https://www.pref.akita.lg.jp/pages/archive/76759>